

新報

島根県教育庁
隠岐教育事務所
隠岐の島町塩口24
電話2-9772

平成二十八年度を

迎えて



所長 有木健二

新緑の輝く季節となり、各学校・職場では教育活動が本格的に始まったことと思えます。本年度も隠岐に住む子供たちや大人の学び合いと成長を願っています。

四月十四日から続いている熊本大分両県を中心とした地震で被災された方に心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早く安心した生活が送られるようになることをお祈りいたします。一部の学校が再開したとのことですが、様々な報道を見るにつけ、被災地の学校や家庭・地域では映像に映しきれない様々な困難な状況に直面していると

思っています。

今日、学校や地域に訪れる危機は様々な予測されているものの、想定を超えている事象への対応が求められることもあるはずです。報道で見える限り、支援の主体となる自治体や地域・学校では、正確な状況把握と柔軟な発想、組織としてのコミュニケーションシジョンや指示系統、そしてその場にいる一人一人の状況に思いを寄せる心の力、解決への行動力が力強く機能していると感じさせられます。危機管理では「さ」（最悪の事態を想定して）「し」（慎重に）「す」（素早く）「せ」（誠意を持つ）「そ」（組織で対応する）を大切にと言われます。私たちは重大な危機が訪れるまで

の一つ一つの出来事を単に処理するのではなく、それを意味づけ、対応の振り返りと改善の積み重ねが肝要だと改めて感じます。

社会教育という面から見ると、人と人や地域のつながり、地域の組織の存在などいわゆる「絆」が危機的状況では、より大切であると思えます。そのような人や地域をつくるためには、日常生活で社会教育のシステムが構築され、機能しているかどうかの影響すると思えます。社会教育の充実にはまさに地域に住む一人一人の生活の問題であり、私たちはその当事者であると言えます。隠岐教育事務所でも地域における学びを契機として地域づくりが進むように各町村における社会教育の推進を支援したいと思えます。学校教育という面から見ると、子供たちを学びの主体者、生活の主体者

に育てることの大切さを感じます。単なる結果の善し悪しや効率の良さを求めることに終始せず、その目的や過程を大切に、挑戦と失敗を繰り返す中で、困難を乗り越えていく力を育てたいと思えます。「〇〇せねばならぬ」ことのみでなく「〇〇できる」といいな！という発想のもと、創意工夫ある教育活動によって、それぞれの段階で主体者となった子供たちは、課

題解決のために意欲的に発想し、コミュニケーションをとり、思いを持って行動していくと思えます。そのためにも、教職員一人一人がこの仕事に誇りを持ち、主体的に学びながら子供たちに関わり、汗を流す雰囲気のある学校であってほしいと思っています。とはいえ、私たちの体は一つですから、健康に留意しながらチームで協力しましょう。教

職員一人一人が輝き、子供たちが輝く、そのための支援ができる教育事務所でありたいと思えます。最後になりましたが、この度の人事異動により、隠岐教育事務所長を拝命しました有木健二です。微力ではありますが、隠岐の教育がより充実するよう努力したいと思えます。新たな職員を加えた二十一名のスタッフとあわせてどうぞよろしくお願いたします。

平成28年度 隠岐教育事務所スタッフ

○所長 有木健二(新) 2-9770

○総務グループ

課長	藤田和子	2-9774
主幹	宮原麻琴(新)	2-9773
主事	吉田玉美	2-9772
互助会担当	繁浪美穂	2-9779
臨時職員	川畑進也	2-9772
	(FAX)	2-9777

○学校教育スタッフ

企画幹	永島好喜	2-9771
指導主事	宇野陽子	2-9778
	億岐史人	2-9778
	濱田耕一	2-9775
	加多弥生	2-9775
	増本邦雄	(隠岐の島町派遣)
	坂田幸義	(海士町派遣)
	寺下利弘	(西ノ島町派遣)
	田村雅史	(知夫村派遣)

○社会教育スタッフ

企画幹	林明範(新)	2-9776
社教主事	田中義人	(隠岐の島町派遣・新)
	道川一史	(海士町派遣)
	藤野幹雄	(海士町派遣)
	木下浩秋	(西ノ島町派遣)
	横田輝昭	(知夫村派遣)

